

私が留学したエモリー大学があるアトランタは、アメリカ合衆国ジョージア州北西部に位置する都市である。アトランタは古くは、鉄道交通のハブとして、また綿花産業の中心地として栄え、現在はコカコーラ、デルタ航空CNNなど多数の大企業が本社を置くようになり経済の中心地としての役割も担うようになっている。1996年にアトランタオリンピックが開催されたことも皆さんの記憶に新しいでしょう。また、南北戦争においてもアトランタ中心地となり、今でも南北戦争にて英雄といわれるストーンウォール・ジャクソン、ロバート・E・リー、ジェファーソン・デイヴィスの3人の肖像がストーンマウンテンに浮く彫りで彫られている。



①ストーンマウンテン

エモリー大学はアトランタの有数企業の一つであるコカコーラ社に支援を受けていることが有名である。エモリー大学にはアメリカ中より集められた有名な教授が多数おり、その中で脊椎部門の研究にて有名なDr Bowenの研究所に私の入局した整形外科の先生が留学しておりその先生を頼りに留学した。留学時午前中は、研究所にて先生の研究を見学し、午後は各病院を回るといったスタイルであった。

私が滞在してホテルはエモリー大学のより車にて約5分のところにあり円高も合間って1泊6000円程度で滞在できた。内部はキッチンもあり滞在するには十分な広さであった。



②滞在したホテル

まず、1日目の午前中は研究所を見学した。各国から Dr Bowen を頼りに脊椎の研究をするため集まった研究者達、また日本からは和歌山県立医科大学だけでなく徳島大学、金沢大学などからの留学者達がいた。留学は日本にいればなかなか会うことの出来ない人達に会う機会を作る交流の場であると感じた。また、同年に韓国より単独で留学している Dr もおり志の高さに感心し感銘を受けた。



③研究所

1日目の午後はエモリー大学の校舎を見学した。校舎といっても日本の大学より遥かに大きく一つの都市くらいの大きさがあった。日本の大学では考えられない規模であった。



④エモリー大学

2日目の午後は脊椎センターを見学した。脊椎センターとは、脊椎の外来のみを行う場所で、家庭医に脊椎疾患だと診断された人たちが紹介のみで受診する場所である。大病院に直接受診することが出来る日本のシステムとは違いシステムかにこだわるアメリカならではの病院である。外来も Dr のいる部屋に patient が来るのではなく patient がいる部屋に Dr が行くというシステムであった。



⑤脊椎センター

3日目の午後は、脊椎病院の見学をした。外来にて入院が必要と考えられた人が入院する。ほぼ完全個室性で、団体部屋がメインの日本の病院との違いがここでも見受けられた。プライバシーを尊ぶアメリカならではの施設であった。



⑥脊椎病院

3日間とは短い留学ではありましたが、日本とアメリカの医療の違いを知ることが出来とてもいい経験が出来たと思います。日本には日本の良いところアメリカにはアメリカの良いところがあり、それぞれの良いところを今後我々が成長し取り入れていかなければいけないことを思いました。また、Drとして先輩が留学している姿を見将来自分が同じように留学したいという志が生まれ、研修医が終わり3年目専門に入っていくにあたりモチベーションをさらに上げることが出来ました。和歌山県立医科大学にて研修をされる方は是非この企画を利用し留学してみてください。費用はほとんどかかりません。また、研修病院に迷われている学生の方は和歌山県立医科大学では一般の臨床経験だけではなくこのような経験もつむことが出来るということを頭の片隅にでも置いてください。